



なぜ、女は男より長寿なのか



人間生活科学部 教授 斎藤 征夫

人口白書など多くの白書は、統計資料が主体であり、無味乾燥に感じることも少なくない。しかし、目的を持って見る場合、多くの情報を読み取ることができるのである。人の寿命もその一つである。

人間の寿命は、経済や医学の発展とともに延びてきたが、同時に、平均寿命に男女差が生じてきている。

すなわち、女性が男性よりも長寿になり、その差が拡大しているのである。1920年代の平均寿命の男女差が1歳であったが、2007年には7歳になっているのである。また、100歳以上の人々の人数は、圧倒的に女性が多い。これらの傾向は日本のみならず先進国といわれるいずれの国でも認められることである。

この平均寿命の男女差は、いかなる原因によるものか、人口動態統計より私なりに追求し、以下のことによるものと考えている。

1、乳幼児期死亡数(率)の男女差

乳幼児期の死亡数の多少は、平均寿命に多大の影響を及ぼすのであるが、この乳幼児の死亡数は、女性よりも男性に多い。この原因としては、乳幼児の死亡率の1位を占める遺伝性疾患は、主に男性に発症するのである。また、諸臓器の発達は、女性より男性が遅く、男性は病気になりやすいのである。

2、不慮の事故、自殺による死亡者数(率)の男女差

1)不慮の事故

交通事故や業務上における死亡者数は圧倒的に男性に多い。

2)自殺

自殺者数は女性よりも男性に多く、60歳以下では、男性の

それは女性の2~3倍である。この原因としては、経済生活に対する負担の男女差など多くの要因が考えられるが、女性は孤独やストレスに対して強いことがあげられる。女性は男性と比較して、価値観の多様性や適応性をもっているのである。

3、主要疾病による死亡年齢の男女差

悪性新生物(癌)、心臓疾患、脳血管疾患などの生活習慣病による死亡者数が男性に多いのみならず、これらの疾病による死亡年齢は、男性の方が若いのである。一方、老衰による死亡者数は圧倒的に女性に多いのである。

この原因は以下の要因によるものである。

1)飲酒・喫煙習慣の男女差

疾病の発症要因である飲酒・喫煙者は、圧倒的に男性に多いのである。

2)食習慣の男女差

栄養のバランスなどの食生活に注意を払っている人の割合は、女性が明らかに高いのである。

3)種々因子の生体に及ぼす影響の男女差

肥満は生活習慣病の主要因であるが、女性の肥満は、男性の肥満よりもはるかに疾病の発症要因とならないのである。このような傾向は、他の要因でも認められるのである。

これらのことより、女性は妊娠可能な年代では、疾病の発症率がひくいのである。もちろん、閉経後では、男性と同じ発症率になるが、それまでに差が生じているのである。

以上のごとく、女性が強く長寿であることを論じてきたが、この事実は、各家庭で証明ずみのことである。



ブリティッシュ・ライブラリー British Library

法学部 教授 川津 雅江



▲ British Library HPより。

イギリスの国立図書館であるブリティッシュ・ライブラリー(BL)はイギリス文学を専門としている私にとって聖地のような場所である。現在1億5000万以上の印刷物・手稿・楽譜・録音録画物・地図・データベース等々が取められているが、毎年その数は300万ずつ増加しているという。まさに世界最大規模の図書館の一つである。ロンドンのコリンデール駅近くと西ヨークシャー州のポストン・スパ駅近くに二つの別館があるが、私がほとんど毎年のように利用するのは、ロンドンのセント・パンクラス駅とそのすぐ裏のキングス・クロス駅から歩いてすぐの非常に交通の便がいいところにある本館である。1998年にここにオープンする前までは、BLと聞けば、大英博物館内の図書館を思い浮かべたものだ。現在のBLは大英博物館図書館の他7つの図書館を合併したものである。

閲覧室に入るにはReader's Pass(閲覧許可証)が必要だが、外国人でも研究者はもちろんのこと学生や社会人でも必要書類を提出すれば、写真をとってすぐつくってくれる。更新も簡単である。また、閲覧室内ではPCなど持ち物はぜんぶ透明な袋に入れておかねばならないが、その袋も地下階のロッカールームで無料で手に入れることができる。コイ

ンロッカーは閉めるときに1ポンド使うが、開くときに戻ってくる。海外旅行用の大きなトランクも入るロッカーもあるので、午後7時発の成田行き便で出国する当日でも大丈夫。税金を払っていないのにいいのかしらと心配するほど、とことん外国の閲覧者にも優しいのである。そのため、日本の大学の長期休暇中には沢山の日本人が利用していて、知り合いに出会うことがよくある。その度毎にきまって言い合うのは、「ここでの一週間は日本の一年に相当するね」だ。最近のネット環境の向上のおかげで、Reader's Passがあれば日本国内からでも前もって閲覧したい資料を予約できるなど、とにかく時間のロスがない。稀覯本の複写もスキャナで取り込んでPDFで保存できるようになったので、以前のように帰りの荷物が重くなることもなくなった。さて、閲覧室で活字を読むのに疲れたら、気分転換に行くのがトイレかカフェテリアである。イギリス料理はまずいことで有名で、私自身も美味しいと思ったことは滅多にないが、BLのカフェテリアはインドカレーとかイタリア料理もあって、安くてまあまあ美味しいのがいただける。そこには誰でも入ることができるので、旅行で近くを通りかかったとき、ランチに利用する価値ありだ。BLはロンドンの観光名所の一つなので、一階の特別展示会を楽しんだり、書店でお土産を手に入れることもできる。

芹沢 光治良 著

『巴里に死す』

(214 頁) (新潮文庫)



法学部 講師
永沼 淳子

血のつながらない妹が自分より先に結婚したため、妹の夫より条件の良い男性との結婚を望んでいた伸子は、知り合いの紹介で帝国大の助教授である宮村と結婚することになります。自分の幸福な結婚に満足していた伸子でしたが、夫の留学のためパリに向かう船上で、夫のかつての恋人鞠子からの手紙を預かったことから苦悩が始まります。

手紙は、宮村との結婚を反対された鞠子がパリから送ったもので、ある時はヨーロッパの文化に対する考察が、ある時は彼に対する愛が、ある時は自分の精神的な成長を望みながらパリでの孤独に耐える心情が率直に語られていました。伸子は、鞠子に比べ自分の精神が幼く貧しいことに動揺し、激しく嫉妬します。しかし、やがて異国の地で病をおして出産した娘に、自らの希望を託し万里子と名付け、ひとりスイスで療養生活を送るのですが、異国で死すこととなります。伸子の死後、小さな娘にむけられた3冊のノートが残され、そこには自分の生涯と、夫への愛とそれゆえの苦悩が綴られていました。

人は、自分の愚かさや小ささを感じ、それを乗り越えようと苦しむものです。伸子は、夫を愛することではじめて自分の傲慢さや愚かさ向き合い、真実の愛を持つには高い精神性と闊達な心が必要だと直感します。そして、苦しみの源である夫のかつての恋人が真実の愛をもちえる人であったと認識したとき、一緒に生きられない娘と同じ響きの名前を付けることで、娘の幸福を祈りました。愛をめぐる苦悩と哀しみ、そして、時間を超えて心に届く思いに涙します。



山田 昌弘+電通チームハビネス 著

『幸福の方程式

—新しい消費のカタチを探る—』

(238 頁)

(ディスカヴァー・トゥエンティワン)



経済学部 准教授
木全 敬止

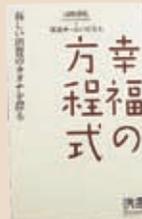
戦後のわが国において、幸福というものが、物質的豊かさを求めての消費活動と結びついてきた。幸福をもたらすと期待される商品を買うことによって幸福を得ようとするのではなく、直接に幸福を得ることを支えてくれる。つまり、幸福を得るための道具としての消費である。

「物質的豊かさと幸福は結びつかない」と頭ではわかっているが、それでもなお、わたしたちが物質的豊かさを求め続けるのはなぜか？

消費不況を迎えた今、消費と幸福との関係はどうなっていくのか、物質的豊かさを超えた幸福の形があり得るのか、あるとしたら、それはどのようなものなのか、すでに動きは始めている現実の兆しを呈示している。

そのタイプには、①自分を極める（自分の好きなことに集中するために、ほかの人がふつうにしていることの多くをあきらめる。自分の好きなことに時間の使い方もお金の使い方も特化すること）。②社会に貢献する（環境に配慮して環境に優しい商品を生活に取り入れたり、多少お金がかかっても健康的でスマートな消費をすること）。③人間関係のなかにある（個人と他人との関係のなかで生み出す幸福である。個人は、好きな仕事や好きな余暇を得る。この他人は、家族、友人、地域社会、職場の人から承認されること）三つがある。

従来タイプの幸福は、消費をしてモノに囲まれることで幸福が成り立っていた。それに対して、新しいタイプの幸福は、幸福になるために消費するのではなく、幸福だから消費することになる。つまり、今、経済的に豊かかどうかよりも、将来に夢と希望を持てるかどうかで幸福を決定する。



読書ガイド

読書ガイドでご紹介した本は図書館にあります。ぜひ一読ください。

坂本 光司 著

『日本でいちばん大切にしたい会社』

(207 頁) (あさ出版)



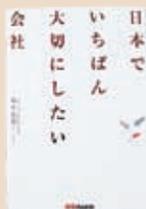
経営学部 教授
川岸 清

企業経営を学ぼうとする時、すぐにアメリカの大企業とか日本の大企業に目を向けてしまいがちだが、『日本でいちばん大切にしたい会社』の中で紹介されている企業は、いずれも中小企業で、ある意味、大企業とはむしろ真逆の経営を徹底している企業である。その点では、この本は企業経営研究の参考にならないのかもしれない。

しかしながら、この“百年に一度”の不況の中であっても持続的に、堅実な成長を続けている中小企業である。雇用を守り、従業員にも、下請け企業にも優しい経営をしている中小企業がなぜか潰れない。いや、潰れるどころかむしろ好業績を上げている会社である。

『日本でいちばん大切にしたい会社』の著者坂本光司氏は、企業経営とは「五人に対する使命と責任」を果たすための活動と説き、つぎの5点を挙げている。1. 社員とその家族を幸せにする 2. 外注先・下請企業の社員を幸せにする 3. 顧客を幸せにする 4. 地域社会を幸せにし、活性化させる 5. 自然に生まれる株主の幸せ これらの条件に合致し、地域に根ざし本当にまっとうな経営をやっている会社がこの本に具体的に紹介されている。著者はリストラが企業存続の最適な処方であるという発想が実は間違っているということ、事実を多数示すことによって科学的に証明したかったと言われている。

この本に紹介されている会社は、48年間増収増益を続けている驚異の会社であり、時の首相(鳩山由起夫前首相)の所信表明演説に引用された会社など、企業経営研究の充分参考になる、いや参考にすべき本ではないかと思えます。



竹下和男 著
シリーズ子供の時間 3

『“弁当の日”がやってきた

—子ども・親・地域が育つ

香川・滝宮小の「食育」実践記録—』

(182 頁) (自然食通信社)



前 人間生活科学部 教授
長島 万弓

平成 17 年に食育基本法が制定されて以降、保育所、幼稚園、小学校、行政機関、民間企業等々において、さまざまな形で食育活動が行われるようになってきた。もともと食育は主に家庭教育の中で行われてきたと考えられるが、最近では家族のあり方や価値観が多様化したことから、家庭と学校と地域社会が相互に連携して行うべきものとなってきた。本書は、小学校における「弁当の日」という食育の取り組みが、子供を変え、親を変え、家庭を変えて、そして学校を変えたという事例を紹介したものである。

舞台となる小学校では「弁当の日」を設け、小学校 5、6 年生を対象に、調理に必要な最低限の知識や技術を 1 学期の家庭科の授業で指導したのち、10 月から月に 1 回、献立、食材の購入、調理、盛り付けのすべてを子供たちだけで行ったお弁当を持参させ、ランチルームで全校生徒と一緒に食べるという行事を行っている。保護者は手伝わないことがルールである。弁当作りの体験で子供たちは、毎日食事の準備をしてくれている家族の苦勞を知り、感謝の気持ちを持つようになる。家庭での親子の会話が増え・・・と子供たちだけでなく周りの大人たちも変わっていく。作ったお弁当と一緒に写る子供たちの顔は、満足感と自信に満ちている。子供たちの感想や先生、保護者たちの感想、それをとりまく周りの反響にその効果の大きさが表れており、そして何よりも著者である校長先生の弁当の日に託した夢が語られた部分から、食育を通して子供たちに何を伝え、何を身につけさせたいかが明確に伝わってくる。「食育って何?」と思われる方は、ぜひ一読を。



ダレン・シャン 著『ダレン・シャン』を読んで

法学部 加藤 弘隆

「奇妙なサーカス」シルク・ド・フリークを見に行った少年ダレン・シャンは、毒グモマダム“オクタ”に噛まれた友人スティーブの命を助けるため、正体不明のバンパイア“ラーテン・クレプスリー”と恐ろしい取引をして、半バンパイアとなった。スティーブは半バンパイアとなったダレンのおかげで助かったが、もはや普通の生活ができなくなったダレンはバンパイアの世界へと足を踏み入れてしまう。ダレンはサーカスの人と触れ合ったり、バンパイアの仲間たちができたりとそれなりに生活していたが、バンパイアに憧れバンパイアになりたい少年であったスティーブに逆恨みされてしまい、命を救ったはずのスティーブに逆に命を狙われることになってしまう。この作品は児童書でありながら、命の大

切さや家族の大切さ、友人との別れや大切な人の死など、本当にたくさんのかたちを考えさせられる作品でした。ところで、『ダレン・シャン』は、なぜ今こんな話を？と問いたくなるような文章で始まりますし、この物語の主人公と著者の名前が同じであり、あるはずないとは思いつつも著者は半バンパイアなのか？といった疑問を持たせるような内容に惹かれました。こうした疑問については、12巻まで読むことによりすべて解決できますし、納得させられます。

このように本作品は、よくまとまった素晴らしい作品だと思いますので、ぜひとも1巻から12巻まで通して読むことをお勧めします。



『話のとぎれない!話し方66のルール』を読んで

経営学部 森下 大地

「私が「会話」と言う時には、ただ単に「人と人が話をした」というだけでは「会話」とは考えていません。

私が「会話」と言う時には、新しい思い付きや自己発見などにより、或る意味「予想外の方向」へと行ってしまう場合の事です。

例えば今日人と話をする為に、昨日から考えていた事を予定通り全部話す事が出来てスッキリしました・・・と言うのでは、これは一方向的な「演説」と同じ事であって相手の人は「聞き役」だけになってしまいます。

人と話をした時に「スッキリする」という事は大切な事ではありますが、これでは身体に溜まった物を全部出すように「トイレに行つてスッキリしました」というのと全く同じ事だと思ひます。

これは一種の「浄化作用」の働きです。

では、どうすれば「会話」と言えるようになるのか。その答えは「相手の話を聞くこと」更に言うに「相手の気持ちを読み取ること」です。

本書ではこういった聞き手に回ることのでられる会話の基本的なテクニックを中心に、分かりやすく説明されています。

私は元々会話が得意な方ではありませんでしたが、本書と出会ってから少しは相手の気持ちを読み取れるようになり、現在行っている就職活動にも役立っています。企業が私たちに求める「コミュニケーション能力」とは言い換えれば「会話力」とも言われます。皆さんも今後の就職活動、仕事、または恋愛などあらゆる分野において更に円滑に行うためにも本書のような会話術を身につけてみてはいかがでしょうか。



山田真哉著『女子大生会計士の事件簿』を読んで

経済学部 野中 勇希

現役 女子大生会計士「藤原萌実」と、会計士補「柿本一麻」の二人を中心に展開していく推理小説、これが『女子大生会計士の事件簿』です。推理小説と言っても、数多くあるミステリー小説などは違い、企業の不正を暴くという実際にありそうな現実味のある世界観が魅力です。そして何より、この作品一番のポイントは勉強になるところです。ストーリーを進めていくうちに必ず出てくる会計の話は、ちょっと小難しい点もありますが、わかりやすく解説されており、読者も一緒になって考えられる事が出来るので面白いです。

私は、高校三年の時にこの本に出会ったのですが、全く会計に関しての知識を持っていなかった私でもすんなり物語の趣旨や本質を理解することができました。登場人物た

ちの個性やキャラクター性は、読んでいて飽きが来ません。むしろ、こんなことで大丈夫なのかと心配する

場面もあり、自分も物語の世界に入り意見を言いたい、会話に参加したいと思いました。

ストーリーの展開が早く、難しい語句などの解説も付いているので、会計の知識がある人もない人も、最後まで飽きることなく読み進めることができる作品です。

単純な話と思われるかもしれませんが、私は大学の進路に迷っているときにこの本を読み、会計について興味を持ち、進路の候補に経済学部を入れました。この本は、会計に興味がなかった人でも、読めばどんな人でも会計について興味を持つことができると思うので、是非読んでみてください。



坂口安吾著『桜の森の満開の下』を読んで

人間生活科学部 管理栄養学科 山田知優

この 『桜の森の満開の下』という作品は、満開の桜が絶景だなんてとんでもない、むしろ恐ろしいものである、という話から始まります。一本の桜ならまだいいのです。この話は桜の『森』の話。私は想像してみました。一面桃色の花を咲かした桜に囲まれる自分を。何故か、本当に何故か分かりませんが少しだけゾッとしました。この作品の主人公である山賊の男は、満開の桜の森に一步、たった一步足を踏み入れただけで何らかの恐怖を感じ必死にそこから逃げ出しました。この男もきっと一体何がそんなに怖いのか分かっていないのでしょう。

結果として、作者は桜の森の恐怖は『孤独』からくるのではないかと書いています。四方八方に咲く桜に囲まれることで、まるで自

分ひとりだけがそこに取り残されてしまったのではないかと、そんな錯覚に陥るのかもしれない。山賊の男

は、最後に桜に囲まれて気が変になり自分の妻である女を殺してしまいます。自分が帰る場所を自分で壊してしまったのです。帰る場所のない男は、孤独を怖がることもなくなり桜の森に囲まれて、物語は終わります。

坂口安吾の作品はどれも好きですが、正直読みやすいとは思いません。遠まわしな表現が多いからです。ただ、そういった表現を『これはこういうことなのだろうか。』と『自分なりに考えて』読むというのは、とても楽しいと私は思うのでぜひ皆さんに読んでもらいたいです。





新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

これからの2年間あるいは4年間に充実したものにするためにどうぞ図書館に来ることを日課にしてください。毎日の学業の下調べに、資格や試験に備えて、将来就活に、そして時間に余裕のあるときには、メディアコーナーで映画を楽しみましょう。

“学生選書の会”の体験記を寄せてくれた学生さん、1階ホールで“写真展”に御協力いただいている一般利用者でアマチュアフォトクラブの方からのおたよりを紹介します。

■ “学生選書の会”に参加して

経営学部 太田真唯

私は、1月21日に友達と“学生選書の会”に参加しました。

もともと本が好きで、選書ツアーにいつか行ってみたいと思っていたところ、応募した友達に誘われたのです。

栄の丸善に集まり、最初は、1冊、2冊と悩みながら選んでいましたが、時間が経つうちに自由に自分の興味のある本を選べるようになり、気づいた時にはもう集合時間になっていました。選んだ中には、最近芥川賞を取った本、授業で先生から聞いた本、また、自分だけではなく友達にもぜひ読んで欲しいと思う本も沢山あります。

図書館に並べられたら自由に読みに行けますし、他の人がよんでくれるのも楽しみです。また、いつか機会があったら“学生選書の会”に参加していろいろな本を発見したいなと思いました。



■ いつも有り難うございます。

ニコールクラブ・ナゴヤキャッスル支部 支部長 市川 和郎



活動の一部、海外撮影会の作品展は毎年恒例行事となっています



図書館ギャラリーをお借りして写真展をおこなっていますニコールクラブ・ナゴヤキャッスル支部です。1ヶ月のロングランで、年2回も写真展ができることは、アマチュアのクラブにとって大変恵まれております。そして図書館を利用する多くの学生さんや市民の皆さんにも見て頂けることは、私達に大きな励みになります。

私達はもう30年以上も写真を楽しんでおりますから、今では、みんな中高年になりました。20人前後のメンバーで、ここ数十年は名古屋大須のワキタギャラリーで毎年クラブ展を行っています。その過程の中でワキタさんから、貴校図書館の加藤さんを紹介して頂きました。そのご縁による私達の写真展です。本当に有り難く思っております。

私共はいつも写真を楽しんでいますが、沢山の皆さんに見ていただいても恥ずかしくないよう向上に努めます。これからもどうか宜しくお願いいたします。

図書館だより Vol.61 2011.4

発行所 名古屋経済大学 図書館 〒484-0000 愛知県犬山市樋池61-22 TEL (0568) 67-3798 (代)
名古屋経済大学短期大学部 図書館 ホームページ <http://www.nagoya-ku.ac.jp/lib/index.html>
発行 年2回
印刷所 株式会社 一誠社 TEL (052) 851-1171